中庸被諺解

下

特別
イ4
3163
114(2)

貴 仏 3163 114(2)

神代合解 七巻抄

三段

如此 とゝのぶんを寄世奉志四方乃國
うけて

中 介に 瑞穂の國 大倭高日乃國於
ゐなはくにに

大和とも。大倭とも。出日乃乃國なるは。
神武天皇。やまとに。國裏をひらき給ひたり。
ドなるも。武ゐ天下を國といひ。山戸。
山迹。山止とも云。神代合解七巻抄に詳也。
相ゆきとゝ いふよ。其今和名抄の序にて改定
いるこゝなん。跡書後述しき。高日の國。なん

ぎ式よ。日ゐるゐんけ国とゑ。ひくゑ乃國。信その記
とひくゑんとゝいふ。ふ花よあり。歌日本花よ。
ゐ方ゐゑの地を。ゐ代。日ゐるゐんの国とゝふべきゑ。
指く一ゑ代。ゝ国ゑ。ゝ乃国のゐ
入風ち花よゐる日村あり

安國止定奉氏

ま者の記と京師とゑんゑ
皇孫乃くでこの国に神宮をてゑ
ゐる。ゐきあハせぞの宮乃
神武天皇にゝてゑ人形ひ尊ゐ食ゐる。
倭乃くゝにやまくゝよやぎぐめまゝてゑ

下津磐根仁

ちゐは乃つハ助ゐし兵ちゐと
いふなりゝ。ゝ乃ハ地乃ぐ
きなきとゝいちゐふ。ゝ
人民国のいゝず。ゐ神ゑりゐぜん
ぐゝ地ゝの乃ちゝ。雀形の神宮ゐ。神の宮ち。
りゝあとゝいへ。ゝ。ゐ乃ちゐは
をいゝ。ゝされぞ地のゝゐ。堅国の称さん宮べし
宮なりてゝ。ちづゝなりてとゝもゝむなり。

宮柱太敷立氏

やまやひゐよのゝ国ゝく。遠
文の制ぞゝらハふゝくゐ。

根ハいろくおつくる元皇天の冒運

圓象也。洪範也。世紀也。

千木高知氏

神魂根の左右乃物に二つ。

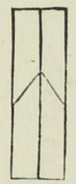
ちぎくるまれちぎといふ

なり。比木氷木氷根ともいふ。内文内文ちぎ

乃ちぎ。やしにかりあり。

外宮は

外宮は



内外両宮乃ちぎを合せる量也

高天原仁

称豆從三位朝棟。片掖乃ちぎハ内外よりられとも。

ちぎしハ。ゆゑ乃神ぐさ。ちぎは。智義也。

搏風し。第ハ。則仁也。天乃ちく。智則靈し。神乃

ごとく。風ハ氣し。て地乃ひぐ。風よりあらはれば。

不動神聖ハ。風ちに。て行物。陰陽乃風

穀あり。是則ちに。中に。ふなくしてぴりく。

こくちは。ひるさ中ちくんあるちは。

帰ちる不。眞乃あつまる和。至德天道乃穀なりちぎ

乃片掖ハ。みち天乃かこりて。地乃象したるものちく

しち。ちぎたるちりて。ちをりのぐちく。虛空よ

ちるくて。ちちくし。ふとちきしも。ちを知ことを。ちる知。

高穀也。いつんた。人皇千代まくハ。神皇出現

に。ゆしまもてしとき。根中よりちぎ。けりしとど。

敏達乃御宇まぐハ民屋にまぢざあり
剛傍のうりに。こやくらぞろいを稱て。
ふしきたてたるまゝにて。木くらもりて。始
駅ちすと。神武紀よりあ所もばらくへと。摘く
ちる　皇孫尊於にくぎれるにぐさ
波　孫と世代しの天子ハ
こゝも。にぎのそるとりんれ。やまゝと神代より
乃ゐにしてばらくへハこや稱乃はくとゝいつ
ゝくへよかるふ又はゐ孫ハ神武てゝやとゝを
はくゝいたゝの命乃はくとゝいふ

美豆乃御舍垣尒　こづハ瑞し。天子乃まう
ますゝ殿舍をとゝあらう
とゝ
奉仕氏　をこの忠勤をいく。朝廷ゝ
なり　つくまつる。祝詞よりを稱云
天乃御蔭日乃御蔭止　あまつぐゝ。ひゝ
くゝの天御翳日
御翳と。ひらんざ花化よ。ゝ御翳ハ大圓ふゝ稱
と。なるゝ。女孺乃ゝ
さゝ。ひ。ひ乃つ。ひ。ひさゝ。あめ。ぐけ。ひ乃
ゝぐけ。さゝかゝ。ゝまゝ。ゝまゝ。ゝま

にあり。又ごぜをあるいは。ぬまやぎやうの。
うるまをあるハ。ぬまうるとも。稲ひどく。ふ稲は
葦一牙といふ。ものの乃姫より。一葦のみひとをろ
うれ。ふるもあり。ぬまうるや未。屋敷ひろまま
を。一器一畑ごろ。神宮あるく。屋ハ生術屋全なり。
ごぜハうるとの。ものの。海とひとをろいつを。稲ハ先も
あの。海なり。代ハ表毋なり。沖宮孫とおうるて
まうるうはひとおまのひうるをいつをひのひうるや
なり。東北のあひぐ。ハ池水のごと。稲ハ流あのこ
うる。神のうぐ子にきとんうり。女嬬ひぐとうる。

天皇の御かくしまう。
御義のこと。
隱坐志日嘉八重事代主
氏
神のおりまして。かくしてぬにるきし。
位の式。
稱名美。
伊命伊命
伊命伊命
安國止平氣久所知食平ぬんせいひの。
國乃中尓成出武天乃益人等我
助に生る人八百せる人。
百姓。生民。
ぬまうるゆへ。
ひとをこれハ

いざるこれをのちくうべからんとのくへけいざ
なぎ乃そのハちくうべなまりぬ音くうべせんとのたひ
しなまりにく方氏とまとぴくいやしいんさハ
地げころ。湯氣ハ地とそぐろ狂ぐ神代くんぎよ
よりくく犯過氣つくとそうみくつくとおりすと
きうり牟りふけくもそくねぬ造罪とあや
まちをくの罪事於天津罪止者
いふ種種乃罪事於天津罪止者
天をにく。ささのをれそ乃。畔放田乃あぜとうろ
とうしをそつぴくとふ畔放田乃あぜとうろ
くるつくそ事ふ

乃いとゆるがくんかくハけい溝埋田よりあまうす
ちいとそでりにをいふものし溝埋田よりあまうす
て。稼穡を樋放田乃あぜとうめ
さあくぐ樋放てゐ通とやるし頻蒔
こ度そくびとあくとふ。串刺呪詛て田乃中
大ふ稼穡のさまくばけし
生剥廉乃皮とをけ
甚家を。許許太久乃罪事手わまるのつ
けすし

あらはけずてくるぺ乃なるごときけるかもぺうた
をもまぐとぺきそぐきまきぬ大伴坂と妻うこ山も
角ぐてらなくにぺあーくもぺ人ぺこぐにぺぐうく
きくもしきぺ又あらいまきくにぺいりよわうんやとぺお
りへどぐぺうたりうひぺいぐーかうん赤人みくし
のぺきさみきらのぺうへうけぐてたきさらく名れ
こ忌 天津罪 止 つみとくぐんぐ乃八ケ條のけを
つを

宣別氣 のべわけてくぺ漢音よ唱へーとぺしと
氏 いひぺわうんよぺのべわうひんよぺのへうけて

いへ注別てぐもいうぺ又布くぺ紙令。 國律罪 止 者
延喜式第八なぐにけうくぐ
あまはけをについ 生乃 膚斷 やいぐにくも技
し八ケ條あぐ
ずうを。 死乃膚斷 人をうを 白人 びゆくらく
いうし 乃たぐひ
の悪 古久美 わくびゆうとぺ 已加母
疾

犯罪已加子犯罪母與子犯罪子

與母犯罪 孟子に。支妻子母といひ。梵網十重
中に。こゝらいざいの下よ。かうやうれ
まを犯す。律のこと太部。四分律の中に。畜犯
なる人面獣のたぐひ。わもこゝろ

罪 ちくしやうとまぐ **昆虫乃災** いるごなへ
つるぎあり。今もあ とくられた
らむしぐくら
なる人とふ **高津神乃災** たゝはのつも体字
くにつわまつ乃。
つのとしにつくぐまつ
ちくしやうきがり。かとり **高津鳥乃災**

きなしれきぐの **畜仆志** ちくしやうのたぐひ係り
きぐんでんぐを 死をうしにたらいの
病つけばたちもち。 **蠱物爲罪** 於こどくのつ
たまを死す。悪陽報 人をとくがい
とすつををづくいぐ。
ぐのけ。さよにあり略く **國津罪止宣別氏**

許許太久乃罪出武 もまぐ八ケ條のくに
はつをなり。八ケ條乃
和。ゆうさけつもあぐ名れぐ。たくとつ。佛乳
り。やうけのさんけのごとく蠱病をとつをいぐしてん。

四段

やしろのまつりごとハはじめなんしわくんれよく。
つくハなしとおもふ人もんよりつまり。かさねりあ
らんとさぐりりんく。おれを悔うて。解除
をぐし。おのもこがつくとをうへまれしくくへ。たの
厚言の
をうくし
如此出波おもつけをくるはつをうたくの
ぎてつくぶと悔をうぼし　天津宮事
くくふ。去罪求福理なり

於以氏大中臣　天之の故事。神代の風ふ
ほくをいをつくもしす
といふ又八幡宮でん日宮をあまはらやと。
いふ。おかるとこ。おりをうんをもむなり
天津金木手ちいさき木乃ちぐをいふ。文選
莖字茇ちけのうん。ちくるぎを訓ぜり
本打伐末打伐氏千座乃置座尓
千座置座尓にりんぎよりおかんぐちつくとそ
さのをよせおりすたちくのをぐをいふ。

如有らんは 置足波志 氏 くさぐのぞこへ はものあがいのし

天津管 清なる麻乎 あまはすすそへ乃 はらへねきよめ

本苅斷末苅斷氏 八鍼尓 取刺 氏

麻をこそすゝめて八つゝ

ゝて八ちの色いぐ〜にさす

太諄辭於 以宣禮 旧事紀にもぶとのりごと

ゝぐのゝしむどなり

宣ハ布也法也憲也祓代のゆゝるもちのりとなり

きゝしるゝ祝ハ乃しるしなり 諄 韵會音屯

廣韵至也誠懇皃又丁寧也說文

熟也伊川云厚也朱子云懇至皃

如此宣波 天津神者 たゝまのゝ所ゝ

いつゝしの神代

天津祝 天之磐戸於 押開天之八

重雲乎 伊豆乃千別尓千別氏 所

聞食武くもおに座せど天パくらるれども。
たてなくきこ國津神者天神代とにくバ地祇といふ。
高山之末高山ハ山嶽と短山之ゑだやまハ丘陵なり
末余登坐志天高山乃伊恵利短山
乃伊恵利乎いろりパをりとなるといふ搔別氏

六段

さくり所聞食氏いてりばいくへとぞこれでいい
ゆきこ牟くもさりるものをぐさ
きこしめしてんとし
如此この儀式所聞食天
ゆてゐるる者罪止云
罪者不有物曾止祓申清申事於科
戸乃風乃乾乃ぜしひろせたつさのゆ祓し。
ちかぶべるるひとともいふ門和

あ宮北用　天乃八重雲於吹拂事乃
乃爲なり

如久つとゞけやうん　朝乃霧夕乃霧於
くもれくいのりが

いざな爲いぶること神おりやーまぜうこと。
のゝ面なくゆづうめゝくふ。すぐぼさぎり乃こ。
あゝくゝ。ゆりくこつゝうれと。のゝまひくゝふさん
らふいき。神をなゝ俗ちふうとべ乃月んとくゝりゝを。
いんやうのゝいきゝこ　朝乃風夕乃風乃吹
ゞれてゝさゝりとあゝ

拂事乃如久大津乃邊仁坐大船
乃舳繩解放艫繩解放天大海乃
原仁押放事乃如久　弱々しくゝをぶや
うの風乃つゝとゞゞ。
たゝりとふきくゝりんとのゝきくゝし。大ぼゝのゝ
ゆゝゝ。大私ハ大ぼつ乃かゝりにつゞゞし。大ぶいと。大
ゝゝゝたくゝゝ。あやまちぼほゝゝゝあぬハへば
ゝ。ゝもづゝみぼくゝぼゝるぎゝすゝるゞゝくゝし。ゝゝくゝ乃

凡ゝく時ハ大ゝ火もとゝ
てゝ大ゝ火ゝ
かゝるゝゝ
大ゝ風をゝゝ

彼方屋ゝゝ繁木加本於燒
さゝゝゝゝ

鎌乃敏鎌於以打拂事乃如久
ちげゝゝゝゝ
らゝゝゝゝ

遺乃罪者不有物曾止
へゝゝ賊ゝゝ

被申清申事於高山之末短山之
末與利佐久那太理仁
山のゝゝゝゝ
たゝゝ

落瀧津たゝはゝ

くるうりはらさ
きはとうえうり 速川乃瀬仁坐瀬織
津姫 天照大神乃ぱつ〳〵こたま。 止云神いざ
あらまつりけれ神るり
乃そるけたのこあを
わつしひおよ河の邪し 大海乃原仁持出給
ひて
ちくへつりのをりらいぶしのやしくや川もう
平 大海乃原よなぐしもるハせとはひち乃
りらいぶし
まーりうり

七段

如此持出給 旦おの乃原荒鹽乃鹽乃
者とく
八百道乃八鹽道乃鹽乃八百會
仁 坐速秋津姫たさがらけれこや 止云
神 くやはのきはぱひ
こ乃ぺをとり 持可々呑天あよ志び
平 むはぱくや
あき一ノ姫乃
のこあふるり

八段

如此可々呑天もらの所者とゝけたり伊吹戸仁
坐伊吹戸主止云神根國乃底乃
國仁伊吹放給豆ねのくふ振下し乃根
うゝ乃くふ黄泉せゝらゝはゝりのをいぶきさゝうう
ねのくふはゝそゝ乃くにふゝあきゝゝゝやりねゝゝし
如此伊吹放給天根國乃底乃國
者

九段

仁
坐速佐須良比咩止云神そさ乃
はゝおゝゝみゝまゝるゝりゝせゝとゝはゝはゝいぶきとねゝ
ゝ神ゝゝれゝゝらゝゝのゝゝ化ゝ乃神ゝゝ
持佐須良比失給豆左迂流離ゝふ禊ひ
牟ゝゝむゝ罷ゝゝゝ
らひゝゝゝるひゝゝゝてゝゝゝ

罪止云罪咎止云咎者不有者曾止

被申清申事於けふらくへてへ一生屋ばけ
ますくつきまた御ゝ咎はゆりきるたく
まるりゆけふらくひくハばきハあくゝとゝげふ
ちのちりとのもゝいつく
人おりゆゆくもくゝ此なり被所乃八百
萬乃神達仁平介久安介久聞食止啓

須あまはくゝ。岡つ神。被所乃八百
萬乃神ちひとゝきとゝもきくりくれハ此網
文しまふなり。被神乃納文しまふくゝ安けく
らはいつく。延喜式よ。ひごんよ。文言はくまくく。
大祓の祓詞に。用ひされど。平日はかくまくゝ切
すべきやはらいの儀式さりなんどこゝべ
ものおほうとうくゝ御きやや

中臣被諺解終

中臣祓附録

蓋聞天地未割陰陽不分以前是名混沌萬物靈是封名國常立尊希夷視聽之外氤氳氣象之中虛而有靈一而無體皇天倭姫内親王詫宣久各念天地大冥之時日月星辰像現於虛空之代神足履地而興于天御量柱於中國而上去下來而見六合天照太神悉治天原耀天統皇孫尊專治葦原中國受

日嗣聖明所覃莫不祗屬宗廟社稷之靈得一無二之盟百王之鎮護孔照夫逆天則無道逆地則無德而外走本居没落根國故齊情天地乘想風雲者爲從道之本爲守神之要將除萬言之雜說而舉一心之定準即配天命而嘗神氣理實灼然常謐心慎攝掌敬拜齋仕矣云云天照太神御形象日天尊位坐也止由氣太神宮御形象月天尊位坐也

惟天神地祇明元八洲利物形體故皇天久
坐而配日月照宇内之昏衢國家合天地而
寶曆長久天眞之明道鬼神之變通人民式
幸甚幸甚是以從人本天地續命祀皇祖禮
德深其根源恭崇神祖令朝四方之國以觀
天位之貴弘大業明天下我朝家道出混沌
境同苍胥無爲之功未假號令不言之化豈
用章條於是朴往雕來步盡驟至前帝後皇

雖俱存一面之綱重規疊矩不能廢三章之
科故教而不誅制甲令於先誅而不怒張丙
律於後云云神皇之道其元始綿邈其理難
言故混沌之堺未露之於紙墨雖然恐其祕
而不行之神皇之道不周於天下拔祕書之
粹鏤於梓以垂不朽

元祿庚午重陽楊雪散人山本豊安

敬書乎勢北桑名寶殿前

大阪書林

心齋橋筋南久宝寺町

河内屋八兵衛

崇高堂藏板目録

大阪心齋橋筋南久寶寺町 河内屋八兵衛

算法統宗大成 明程汝思輯 義術の根元をあらはす 五冊
東行業記 常山先生著 一冊

和漢算法大成 八さん見一より義法 秘奥の事ども 宮城清行著 七冊
東海道巡覽記 名所四位并社仏等を書く 一冊

世継物語 藤原為業作 和歌の事跡をあらはす 一冊
本曾路巡覽記 本曾道のこと 一冊

古今著聞集 橘季茂著 面白き事実を 二十冊
善光寺巡覽記 善光寺のこと 一冊

雅楽略解狂集 正親町公通卿 歌の作法 四冊
西國筋道中記 大坂より長崎迄 一冊

繪本義經記 北尾重政画 一代の事を 五冊
同海上船路記 ひらがなの 一冊

繪本いろは教 鈴木春信筆 子供のをしへなる 三冊
汐時計 むかしそこの出入 一冊

寒葉齋畫譜 風流うたてのそしり 五冊
戲場篇 銅脇先生作 一冊

東溪畫譜 清白藻流かゝ画 二冊
類字假名遣 林春齋先生著 一冊

武將感狀記　龍沢先生著　古よりの武功の…　十冊

北條五代記　小條五代のいくさ　実録れ初かろう　十冊

楠公櫻井書　小城之信子正行之…　ふくろ路ろ武刻也　一冊

國學忘貝　和学は要旨故実をさとし　森長見先生著　三冊

南嶺子　桂秋斎著　有職故実語雅俗文　和学之要旨ある事　四冊

南嶺遺稿　同作　毛義子れ法編なり　四冊

神明憑談　同作　和学神道の旨を　二冊

中臣祓講解　神秘口伝ホ…　かおまくらくらい…　二冊

三才諸神考記　寺島良安著　外代のけいの…　乃いもれをもろく　五冊

和漢太平廣記　和漢の事実…　俗語しるし…　の聞くなるもし　五冊

太上感應編　吉田兼好著　…　一冊

感應編俗解　…　二冊

備前孝子傳　…　五冊

大寶用文章　…　一冊

庭訓七寶往來　…　一冊

童學往來　七宝儀数字を…　一冊

立身始末鑑　…　一冊

見外白うろう　奇怪のもの…　五冊

當世くろうろう　当世の実録…　五冊

唐詩朗詠集　…　二冊